

趣 意 書

謹啓

貴殿におかれましては益々御清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素より日本実験動物技術者協会に対し特段のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。日本実験動物技術者協会は、昭和41年（1966年）に実験動物技術者懇話会として発足して以来、自然科学技術の発展および社会に貢献するため、53年の長きにわたり実験動物の飼育管理技術や動物実験技術の向上、更には技術者の地位向上の為に研鑽して参りました。これも一重に諸先輩方のご尽力と関係各位の皆さまによるあたたかいご支援の賜と深く御礼申し上げます。

そしてこの度、令和2年（2020年）2月29日（土）に、神奈川県川崎市に所在する川崎市産業振興会館にて日本実験動物技術者協会関東支部総会・第45回懇話会を開催する運びとなりました。本懇話会は、「技術者の Refinement ～獣医学的ケアの実践を通して～」をメインテーマと致しました。

実験動物における動物福祉の重要な取り組みとして、Reduction, Replacement と並び Refinement があります。しかしこのうちの Refinement は、他に比べ定義が抽象的なため、取り組みは簡単ではありません。最初に思いつく取組みは実験手技の洗練ですが、洗練された実験手技は一度習得すれば終わりではなく、常に新しい情報を取り入れて改善していく必要があります。

また、実験手技は技術者の能力の一部ですが、全てではないと考えております。技術者には動物に対する観察力、動物・他の技術者・研究者とのコミュニケーション能力、新たな技術や社会の動きに関する情報収集力など、様々な要素が要求されています。そのため、向上、改善する主体は技術者自身ではないかという思いに至りました。

本懇話会は、獣医学的ケアを実践していく中で、技術者として向上、改善つまり Refinement するヒントを掴んでいただければと思い企画しております。より動物福祉に配慮した飼育管理および動物実験について考えるきっかけになれば幸いに存じます。

謹白

令和元年9月吉日

一般社団法人日本実験動物技術者協会 関東支部 第45回懇話会
大会長 大羽 沙弥佳
(日本クレア株式会社)